

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームだんらん(1)	評価実施年月日	2008年6月1日～6月15日
評価実施構成員氏名	・坂本 雅子 ・堀 千尋 ・安部 安耶子 ・石村 さゆり ・伊藤 愛子 ・鎌田 大貴 ・阪本 広子		
記録者氏名	坂本 雅子	記録年月日	2008年 6月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>GHが出来たときの事業所の理念の他に、スタッフ間で話し合いをし地域の中で暮らしていく事も含めた理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>個人が常に携帯サイズ用を持ち続け、確認し実践に向け取り組んでいる。またGH立ち上げの際の理念は、玄関やスタッフルームの見やすい所に掲示し常に立ち回り取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>会社の玄関、スタッフルームに理念を掲示し利用案内時に解りやすく説明しており、また運営推進会議の際、理解してもらえるよう地域の方々に伝えている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩時など隣近所の人と挨拶や立ち話などしたり、出勤時など挨拶を交わすようにしてきている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>運営推進会議での町内会長からの情報で交流する機会を持つように努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議での町内会長さんからの情報で老人会などの現状をお聞きしたりし、また「だんらん祭り」と参加して頂くなど、地域の暮らしに役立つよう取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、外部評価を行う意義は会議などで話し合いをして取り組んでおり、また常に目に留まり改善出来る様、スタッフルーム入り口に評価表を掲示している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議では2ヶ月に1回の取り組みの報告をし、それに対しての話し合いを行い、地域の方々からの意見を取り入れサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市で開催するグループホーム連絡調整会議などの参加により、情報などを受けサービスの質の向上に取り組んでいる。またお互いに相談する事がある場合は電話などで連絡を取り合っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>パンフレットや市から情報をもらい、必要性のある方は関係機関と話し合い活用出来る様支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者、スタッフで拘束委員会を設立し月1回の会議を開催し、拘束・虐待がないように注意し防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、ご本人ご家族の不安や疑問点を除くよう十分な説明を行い、理解・納得を得ている。(ご本人が納得されない場合は入所を見合わせるなど対応している)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情処理要綱を設け苦情にすぐ対応するようにしている。また苦情箱を設置しているが、現在意見苦情がない為、日常的に入居者との話し合いを通して思いを把握出来るようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時などに受診内容・日常の様子などを報告し、また身体不調などいつもと違う様子などの時にはすぐ連絡を入れている。また隔月に出しているお便りなどでも報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談の窓口を設けているが苦情が寄せられておらず、日頃よりご家族との話し合いの中で意見を取り入れ運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や管理者が個別に面談を行うなど、意見や提案を聞く機会を設けており、また反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時スタッフが確保出来る様調整に努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係が保てられるよう、努力しているがスタッフが代わる場合など、十分な説明などをし混乱しないよう配慮に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>段階に応じて育成出来る様な研修に参加しており、また内部研修などでトレーニングを行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道GH協議会を通して、同業者との交流する機会を持ち、勉強会や実践報告会などを通してサービスの質の向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦会開催などの行事に参加し、スタッフが楽しみを持てる様にしており、また個々に相談出来る環境作りをしている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>定期的に勉強会を持ったり研修にでる事で向上心を持てるよう働きかけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談時、ご本人からの不安な思いや求めている事を傾聴し受け止めるように働きかけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談時、ご家族からの不安な思いや求めている事を傾聴し受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際、本人・家族の要望を受け止め必要と思われるサービスの選択が出来るような対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人が見学して雰囲気に馴染んでいただけるようにしており、家族とも相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に台所に立ちながら食事・おやつ作りの工夫を教わったり、自室の片付けを一緒にいながら、昔話を聞いて生活の知恵を教えていただくなど、支え合う関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時などにご本人の日常の様子をお伝えするだけでなく、台所に立ったり体操に参加して楽しんでいただいている様子を見ていただいたり、お茶を飲みながらご家族・入居者・スタッフと一緒に楽しむ時間を持つようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係が途切れないように、本人の思いを大切にしその思いを出来るだけ表現するよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が築いてきた馴染みの人との関係が途切れないよう、面会時にはまた来て頂けるよう雰囲気作りをし、住み慣れた場所との関係が途切れないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を常に把握しお部屋の行き来・一緒に体操したり・家事参加をしたり、また散歩へ行く・外のベンチに座っておしゃべりをするなど関わり合い、支え合えるよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話を通して本人の望む暮らしの把握を努めており、毎日のミーティングやスタッフ間の情報の共有、月1回の会議でさらに確認をし深めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式で情報収集アセスメントし、またご家族面会時や本人との日常の会話の中から把握するように努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝のミーティングの中で、一人一人の心身状態の把握をし、また午前中バイタルチェックを行うなどし、その方のちょっとした心身の違いにも気づくよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月毎また大きく状態変化あった時などに、介護計画を見直している。毎日のミーティング、月1回の会議など必要に応じて必要に応じて話し合いを行い、本人・ご家族・スタッフの意見を反映した、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行い、またそれ以前に状態変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに必要な関係者との話し合いを行い新たな計画作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に沿った実践結果、気づきなど個別に記録を記入しミーティングでその情報を共有しておりその実践内容など、その方々の変化を捉え介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人ご家族がささいな事でも相談したり、希望した事を受け入れ、福祉用具を購入したり、病院受診時には移送サービスを活用して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民謡・踊り・ハーモニカ・生け花などのボランティアなどを受けている。消防訓練など行ってもらったりと協力しながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実際に他のサービスを利用したいという希望がなかったが、そう言う希望があれば支援して行きたいと思う。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターから入居状況・入居依頼等の相談にとどまっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>在宅時と入居後のかかりつけ医の変更がある時は、本人ご家族と相談しどちらかを選択していただき、変更ある時は情報をしっかり伝達し、適切な医療をうけられるよう支援している。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>認知症に詳しい医師と受診の際に相談したりしながら、入居者が安心して治療を受けられるように支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>管理者が看護婦であり、日常の健康管理や医療との連携を図り支援を行っている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>入院した際、情報交換や相談を蜜に行い入居者が不安に思わず過ごした頂けるよう支援し、早期退院に向けて協働出来ている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>往診医が居ない為、ホームでの看取りは行っていないが、終末期には協力医療機関での対応となる事を家族や病院と話合っている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>最後までより良く暮らして行けるように、家族やかかりつけ医とともに相談しながら支援して行ける方針をたてている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替え時は不安定になりやすい為、家族・本人・ケア関係者間で十分な情報交換と話し合いを行いダメージを少しでも少なくするよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーに関する声掛は小声にするなどし、見下した言葉かけや対応、自室入室の際のノック、また入居者の誤認に対して否定的な発言をしないなど、尊重した対応を行っている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の思いや楽しみが引き出せるようゆっくりしたペースで対応し、自ら決定出来る様支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースを大切にし、希望を察知出来る様日頃の会話を大切にしているが、時にスタッフの都合で動いてしまう事もあり、一人一人のペースを守る事が出来る様に行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個性を大切にした身だしなみやおしゃれが出来る様支援し、ご本人・ご家族とも相談しながら、月1回の床屋訪問の利用をしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>会話の中で食べたい物を聞いたり、季節感を取り入れたり、色取り盛り付けを工夫している。その人に合わせた調理方法をペースに合わせて、一緒に準備盛り付け片付けを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個人の嗜好を把握しおやつや食事内容を変更している。喫煙者には自由にリビングで吸えるよう灰皿を用意していたが現在は禁煙されている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを知り、その方の習慣や様子を見て声掛けし自立に向けた支援を行っている。また失敗してしまった時は他の方に知られないようにパッドなどを利用し、プライバシーを守っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自ら希望される方がほとんど居ない為、スタッフから声掛けて入ってもらっているが、希望される時はそれに合わせて入浴している。夜間帯はスタッフの人数調整がつかず行っていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の自由なペースで過ごしていただいているが、遅くまで起きている方にはさりげなく時間を知らせたり、翌日の生活にさしさわりのないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の生活歴や力を知りそれを活かせるように、食事の準備・洗濯物たたみ・畑仕事など行ってもらい、また歌を唄ってもらったり体操に参加してもらったりなど、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の難しい方はスタッフがお預かりし、その方の希望や力量に応じて所持していただいたり買い物に使えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は外出の機会が減ってしまうが、その方の体調に気を配り散歩・日光浴・畑・買い物・ドライブにお誘いし、歩行不安定な方には車椅子を使用したりし、気軽に楽しんでいただけるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見・紅葉観光・動物園など行事としての外出の機会を設けている。日常会話の中からや家族からの情報を得て、外出先として出かけられるよう考慮したりと支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スタッフルームにある電話は、気軽に利用出来るよう設置しており希望時にはすぐ電話して頂いている。また遠距離のご家族から荷物が届いた時には、ご本人から電話して頂くなど、ご本人の感謝の気持ちを伝える支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・知人・友人などの訪問が活発であり居心地良く過ごして頂けるよう、椅子を置いたり一緒に飲み物を取り談笑して頂けるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、月1回委員会を開催しアンケートや勉強会を開催し、その中で学んでおり身体拘束は行っていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯の為施錠は行っているが、日中は鍵は掛けておらず、外出察知には鈴で察知しさりげなく付き添うようにしている。居室は希望する方のみ鍵を預け管理して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はスタッフ間の連携で所在や様子を把握し、立ち上がり不安定な方の側で記録を書くなどし、夜間は巡回などで安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に応じて、注意の必要な物品はスタッフルームに預かるなどしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為の知識を学ぶ学習会を開催しておりヒヤリハット、事故報告書が出た際にはスタッフで話し合い今後の防止策として活かしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	管理者が看護師で日中入居者の状態を把握しており、夜間不在時はすぐに指示を受ける体制が出来ている。またスタッフは救命講習を受けており指示通りに動けるようになっている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に対応出来るよう非難の訓練を年2回行っており、運営推進会議の中で地域の方々に協力を得よう働きかけをしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	その時の変化やリスクについて常に家族に対して説明し、その方のその時に応じた暮らしを送れるよう話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の持病やアレルギーの留意事項を共有しており、日々の中でちょっとした体調の変化を見逃すなく情報を共有し対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを作成して、どのような持病でどのような薬を服用しているか理解しており、誤薬のないよう3重のチェック体制をとり、症状の変化にも気を付けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の及ぼす影響を理解し、毎朝乳製品を飲用していただくなど、水分補給も積極的に行っている。また野菜を多く取り入れた献立を心がけており、体操・散歩への参加の声がけなどしている。また2～3日便の出ていない方には下剤服用をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食ごとに、口腔ケアや義歯洗浄の声掛けをし、その方その方に応じた支援をしている。また夜間義歯洗浄を使用し消毒を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の状況に応じた食べやすい形(キザミなど)にしたり、生野菜が苦手な方にはボイルするなどし、水分はゼリーにするなど摂取しやすいように工夫し支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者・スタッフがっており感染症に対する予防や対応に取り決めがあり実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾は使用毎漂白消毒をし、包丁まな板などは毎日消毒を行っている。食材は新鮮で安全な物を使用し衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物が温かみのある配色をしており、玄関前には夏は花を植え、冬はイルミネーションを飾り親しみやすい工夫をし安心して出入り出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間には、安心出来るような家庭的な調度品や設備にしており、入居者にとって日常的な音、またカーテンなどで光の調節をし、生け花などで季節に応じた物を取り入れるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングテーブルで気の合った方々とお話したり、ソファーに座ってテレビを楽しんだり、うたた寝をするなど思い思いに過ごせるよう支援している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その方が慣れ親しんだ家財を持参して頂くようにし、ご本人が居心地よく過ごせるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ内の使用後のパットなど新聞に包んで処理する。尿汚染はすぐ掃除をするなどし、また換気に努め温度調節は、入居者の状態に応じてこまめに行っており、湿度調節もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	建物 内部に手すりを設置し、浴槽内の滑り止めマットを使用し、安全で自立した生活を送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各部屋には雰囲気を変えないような表札をつけたり、トイレはわかりやすい目印をつけるなどして自立して暮らせるよう工夫している		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場は畑作りや花を植え、そのお世話をして頂いたり、物干し場を設置し一緒に洗濯物を干したり取り込んだり、またゴミ捨てを一緒に行ったり散歩したり、ベンチに座り夕涼みをしたり楽しく活動出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)